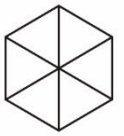




# 富岡製糸場総合研究センターだより

No. 1

(2021年3月発行)



富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

## 【<sup>そうしじょ</sup>繰糸所】生糸づくりの作業指示板

「繰糸」は繭<sup>まゆ</sup>から糸口を引き出し、目的の太さの生糸となるよう複数の繭糸を1本により合わせて繰り取る作業のことです。この作業をしていた繰糸所には、片倉経営時期に使われていた機械、ニッサン製の自動繰糸機が、操業停止時の状態で保存されています。生産する生糸の太さにより繭<sup>りゅうすう</sup>の粒数<sup>りゅうすう</sup>が変化するため、無駄なく良い生糸づくりをどのように行うかを示す“作業指示板”がそれぞれ機械に取り付けられています。

指示の内容を上から順にみると、27中 目標粒付9.1とあります。これは、「この機械でつくる生糸は27デニール、それには約9粒を機械に付ける必要がある」という内容です。デニールとは糸の太さの単位のことです。繭糸1本の太さは約3デニールと均一でないのです。生産するデニール数で粒付数は変化し、この場合は約9粒で目的の生糸となります。次に正常粒付8、9、10は、「目標粒付数を前後しても、8～10粒の範囲であれば問題ない」という指示です。反対に、異常粒付11、7は、「注意喚起：11粒は太すぎ、7粒は細すぎ」を示します。さらに、つめかけ粒付12上6下は、「12粒以上6粒以下は目的の生糸でないため、その部分を切り取ることを示します。SRSの表示は、Special Raw Silk/Special Reeling Silkと2つの見解があり、どちらも「特別に良い生糸をつくる」の意味です。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

